

調査日 群馬県森林組合連合会共販所 11月1日

秋になって土場もすっきりしてきた。まだ売れ残っている古材も僅かに見えるが、これ位になると土場にも季節感が出てくる。夏場の土場は追い詰められて行き場のない丸太達がひしめいていて、何とも言えない圧迫感があったが、土場が空いてきて来て品薄感が漂い始めると、おのずと入札書の枚数が増えてくる。これは**買い気が動いている目安**になる。

明細書欄外の数字は入札枚数で、その人数で競争した。また 再は不落札に再度入札された物件製品市場にも同じ雰囲気があるのだろう。特に大きな動きが出てきた訳でも無いが、買い方の表情も少し明るくなったと言うか、会話も軽やかになった気がする。

「少し動きが出てきたんじゃないか？」という声もある。実は買い方たちはそれぞれに、もっと大量のデータを持っている。別に隠している訳では無く、個々の商売に関する情報だから取り立てて披露する内容では無いだけの話である。そんな中でお互いに協力し合える事があれば、情報交換をして利用しあっている。そんな情報を総合してみると、**見えて来る事もある**。

ざりとて現実とは見れば、世帯の平均年収が 700万円台に対して諸物価の値上がりが先行し家の新築どころではない現実がある。

しかし、世論が物価の値上がりに対して不満を口にしながらも、さほどの抵抗を示さないのも事実でなかなか抜け出せなかったデフレの閉塞感に耐えきれなくなったせいだろう。

そんな所に何かしらトンネルの出口への期待が高まっているのかもしれないが、景気回復の順番は木材業界がいつも一番最後になってきた。順番が来ないうちにまた不況という事も多い。

ハウスメーカーの建売住宅の価格も最高限度が2,980万円と3,000万円には届かないそうだ。そのハウスメーカーは何とか受注量を保っているとは言え、あくまでも前年比という事だから、コロナ以前から比べれば萎縮した状態が続いている。

市況を見ると前回市であればほど敬遠されていた 3.0mの16~18cmを100m<sup>3</sup>ほど売っている。多分市売り以外の押し売りだろう。価格は6,500<sup>円</sup>/m<sup>3</sup>と格段に安い、前回市と価格の比較ができないほど敬遠され続けて夏を越してしまった材なので、この100m<sup>3</sup>の処分は安いながらも市場の努力を評価せざるを得ないと思う。

3.0m材に対して4.0mは良く売れている。市況に現れている4.0m材の値上がりは、新材に対しての価格で、残っている物は、夏からの売れ残りだ。今回の出品も国有林以外では3.0m材は無い。ヒノキは品薄で幸先が良い。今回売れ残った物件は夏からの売れ残りが少し掛かっただけなので仕方がないが、今ならヒノキは競争が活性化して居る。品薄で大人気だ。特に土台用材だ間もなく、かつて一斉に植林されたヒノキが間伐期を迎える。そうになると、また生産過剰は必至だ。今後、ヒノキは少しでも早く売り始めた者が有利だ。とにかく優先すべきで、早い者勝ちです。

調査日 素材生産協同組合 11月7日

こちらの市場も新材が入荷し始め、古材もかなり整理が付いた様で、場内は秋の爽やかさを感じる。但しこの爽やかさは入荷の少なさも起因している様ではある。

国有林材はコンスタントにスギが161m<sup>3</sup>(内3.0m材が66m<sup>3</sup>)ヒノキが95m<sup>3</sup>出品されていたがいずれも今までとは一皮むけた感のある価格で、全て落札されている。秋の新材なので秋の相場になったのだろう。ヒノキは秩父のウッディーコイケかほとんど買っている。この会社は自社でも山を持ち林産事業部もあるのだが、原木売りが先行し、本社工場の需要を満たすほど生産できていとの事スギでも3.0mの柱材は、官材の新材とはいえ12,500円/m<sup>3</sup>は良い値である。

一般材はせっかく秋の需要期が到来したのに、出品料が少ない。スギでは79m<sup>3</sup>足らずだがヒノキは96m<sup>3</sup>余り有った。その他はアカマツ・モミと言った、現在では需要が極端に激減している材の一本掛けだ。これには買い方はは関心が無い。プレカットが当たり前になった今、以前のような梁桁を使う家も技術も失われつつある。木造構造における木組みの技術は世界に冠たる物であり、このままでは、特殊な大工のみに受け継がれるだけの物になってしまう。

本来なら急いで世界文化遺産の登録がされるべき文化である

また残っているもので、カラマツの太物がある。これの太さは合板工場の機械に入らない太さなので製材して、角材か、太い物なら板材を採るしか無いのだが、産地によっては、始末の悪い代物だ。群馬県産のカラマツで唯一信頼されているのは草津以北のカラマツだ。それ以外のカラマツを製材して使うと、角材なら40度ほど捻じれるのは、珍しくない。板材に至っては薄ければポテトチップになっていまい。以前埼玉県春日部に建坪56坪のログハウスを作ったことがあった。

土台には5寸角のカラマツを使ったが、56坪のログハウスともなれば重量は一般建築とは比べ物にならないほど重い、しかも乗っかるのは丸太のままの壁、対して土台は5寸角とは言え、力をそいでいる木材なので、余裕でカラマツの捻じれを押しえ込んでしまふだろうと、楽観していた。ところが56坪の積みあがった丸太の家を、土台が捻じれて押し上げてしまった。という苦い経験がある出荷内容から見ると、出荷者は森林組合では無い様に思う。

素生協周辺の森林組合は、“県産材加工協同組合”の組合員にもなっているのだが、生産にはあまり積極的ではなく、出品も少ないそうだ。

これから価格が良い間は、売れ残りは無くなるだろうものを残念である。